

平成16年度

掛之上遺跡 28・33

—写真図版編—

2005

静岡県袋井市教育委員会
袋井市役所建設経済部区画整理課

平成 16 年度

掛之上遺跡 28・33

－ 写真図版編 －

2005

静岡県袋井市教育委員会
袋井市役所建設経済部区画整理課

例 言

1. 本書は、平成16年度に袋井市教育委員会と袋井市役所建設経済部区画整理課が実施した、掛之上^{かけのうえ}遺跡の第28・33次発掘調査報告書写真図版編（交付金予算分報告書）である。
2. 本発掘調査は袋井市教育委員会松井一明を発掘調査の担当者として実施した。
3. 本調査に係る事務については、袋井市役所建設経済部区画整理課駅前推進係が行った。特に、駅前推進係の鈴木茂、杉山典克、溝口文康、藤原資郎、藤田佳三、渡邊規恵の各氏には、現場と事務に関して円滑な調整をして頂いた。ここに記して感謝いたします。
4. 本書の編集は松井が行った。
5. 本書に使用した現場写真のうち、空中全景写真については株式会社フジヤマが撮影し作成したものを、その他遺構個別写真については松井が撮影したものを使用した。
6. 本調査で得た資料については、すべて袋井市教育委員会が保管している。

写真図版目次

- 巻頭カラー図版1 (1) 第28次発掘調査区西半分空中写真全景
(2) 第28次発掘調査区西半分空中写真全景
- 巻頭カラー図版2 (1) 第28次発掘調査区東半分空中写真全景
(2) 第28次発掘調査区東半分空中写真全景
- 巻頭カラー図版3 (1) 第33次発掘調査区空中写真全景 (2) 第33次発掘調査区空中写真全景
- 図版1 (1) 第28次発掘調査区空中写真遠景 (2) 第28次発掘調査区西半分空中写真全景
- 図版2 (1) 第28次発掘調査区西半分空中写真全景 (2) 第28次発掘調査区西半分空中写真全景
- 図版3 (1) 第28次発掘調査区西半分空中写真全景 (2) 第28次発掘調査区東半分空中写真全景
- 図版4 (1) 第28次発掘調査区東半分空中写真全景 (2) 第28次発掘調査区東半分空中写真全景
- 図版5 (1) 第28次発掘調査区西半分全景 (2) 第28次発掘調査区西半分全景
- 図版6 (1) 第28次発掘調査区東半分全景 (2) 第28次発掘調査区東半分全景
- 図版7 (1) SH6・9 (2) SH6・9
- 図版8 (1) SH6 (2) SH6
- 図版9 (1) SH6-P7土層 (2) SH6-P7
- 図版10 (1) SH6-P8土層 (2) SH6-P8
- 図版11 (1) SH9 (2) SH9
- 図版12 (1) SH9-P3土層 (2) SH9-P3
- 図版13 (1) SH9-P4土層 (2) SZ4東溝
- 図版14 (1) SZ4東溝内土器 (2) SZ7
- 図版15 (1) SZ7 (2) SK13
- 図版16 (1) SK16 (2) SK14・17・18
- 図版17 (1) SK18 (2) SK18副葬品出土状況
- 図版18 (1) SK18副葬品出土状況 (2) SK19
- 図版19 (1) SK19土器出土状況 (2) SK19土器出土状況
- 図版20 (1) SK23 (2) SK28
- 図版21 (1) SK29 (2) SK37
- 図版22 (1) SK38・39 (2) 柱穴群
- 図版23 (1) SD11~13 (2) SD13内土坑
- 図版24 (1) 柱穴群 (2) SP66
- 図版25 (1) SD18~20 (2) 東半分調査区東壁の土層
- 図版26 (1) 重機による表土掘削作業風景 (2) 人力による遺構掘削作業風景
- 図版27 (1) ラジコンヘリによる写真撮影・測量作業風景
(2) ラジコンヘリによる写真撮影・測量作業風景
- 図版28 (1) 第33次発掘調査区空中写真遠景 (2) 第33次発掘調査区空中写真全景
- 図版29 (1) 第33次発掘調査区空中写真全景 (2) 第33次発掘調査区空中写真全景
- 図版30 (1) 第33次発掘調査区全景 (2) 第33次発掘調査区全景
- 図版31 (1) 第33次発掘調査区全景 (2) SB11

- 図版32 (1) SB11 (2) SB11炉跡
図版33 (1) SB12~16・23 (2) SB12~14・23
図版34 (1) SB12・14 (2) SB12・14
図版35 (1) SB12 (2) SB12
図版36 (1) SB12炉跡 (2) SB12炉跡1
図版37 (1) SB12炉跡2 (2) SB12炉跡3
図版38 (1) SB13 (2) SB13
図版39 (1) SB13 (2) SB13炉跡
図版40 (1) SB13炉跡1 (2) SB13炉跡2・3
図版41 (1) SB13石器出土状況 (2) SB14
図版42 (1) SB14 (2) SB14炉跡1~3
図版43 (1) SB14炉跡1 (2) SB14炉跡2
図版44 (1) SB14炉跡3 (2) SB14炉跡4
図版45 (1) SB14土器出土状況 (2) SB14土器出土状況
図版46 (1) SB14土器出土状況 (2) SB14土器出土状況
図版47 (1) SB14土器出土状況 (2) SB15
図版48 (1) SB15 (2) SB15炉跡
図版49 (1) SB16 (2) SB16炉跡
図版50 (1) SB17 (2) SB17
図版51 (1) SB17炉跡1 (2) SB17炉跡2
図版52 (1) SB17炉跡3 (2) SB18
図版53 (1) SB18~21 (2) SB19
図版54 (1) SB19 (2) SB19
図版55 (1) SB19炉跡1 (2) SB19炉跡2・3
図版56 (1) SB20 (2) SB20
図版57 (1) SB20土鉢出土状況 (2) SB21
図版58 (1) SB21 (2) SB22
図版59 (1) SB23 (2) SB23
図版60 (1) 調査区北西隅柱穴群 (2) 調査区北西隅柱穴群
図版61 (1) SK39 (2) SK40~42
図版62 (1) SK43・45 (2) SK43土器出土状況
図版63 (1) SK43土器出土状況 (2) SK43土器出土状況
図版64 (1) SK46 (2) SK47
図版65 (1) SK47 (2) SK51・63
図版66 (1) SK52 (2) SK53・54・56
図版67 (1) SK53 (2) SK55
図版68 (1) SK55土器出土状況 (2) SK57
図版69 (1) SK57土器出土状況 (2) SK57土器出土状況
図版70 (1) SK58 (2) SK59
図版71 (1) SK59土器出土状況 (2) SK59土器出土状況

図版72 (1) SK60 (2) SK61

図版73 (1) SD7・14 (2) SD7土器出土状況

図版74 (1) SD7焼土検出状況 (2) SD15~18

図版75 (1) SD19~21 (2) SP229

図版76 (1) SP243 (2) SP288

図版77 (1) 焼土1 (2) 重機による表土掘削作業風景

図版78 (1) 人力による遺構掘削作業風景 (2) ラジコンヘリによる写真撮影・測量作業風景

※表紙写真 大型掘立柱建物（奈良時代の郡衙正倉院に係わる倉庫建物と思われる。2棟南北方向に並ぶ建物の一部と考えられる。上が南方向。真上より）

写真図版



(1) 第28次発掘調査区西半分空中写真全景
(弥生後期の方形周溝墓の溝と大型掘立柱建物が見られる。西より)



(2) 第28次発掘調査区西半分空中写真全景 (上が東方向である。真上より)



(1) 第28次発掘調査区東半分空中写真全景
(弥生中期の方形周溝墓が列状に見られる。古墳初頭の方形周溝墓も一部見られる。西より)



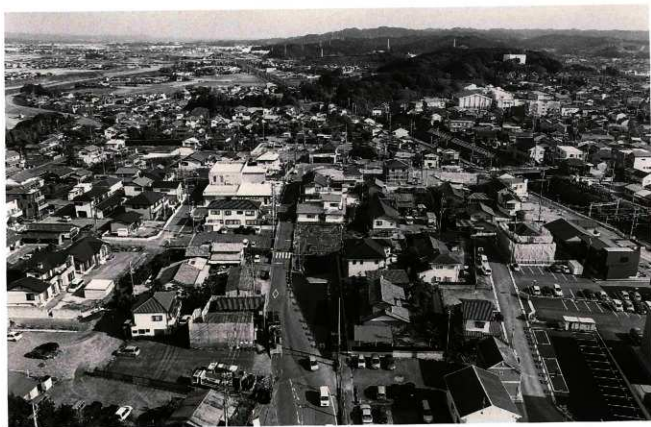
(2) 第28次発掘調査区東半分空中写真全景
(上が東方向である。大型の上坑と溝は江戸末期のものである。上が北方向。真上より)



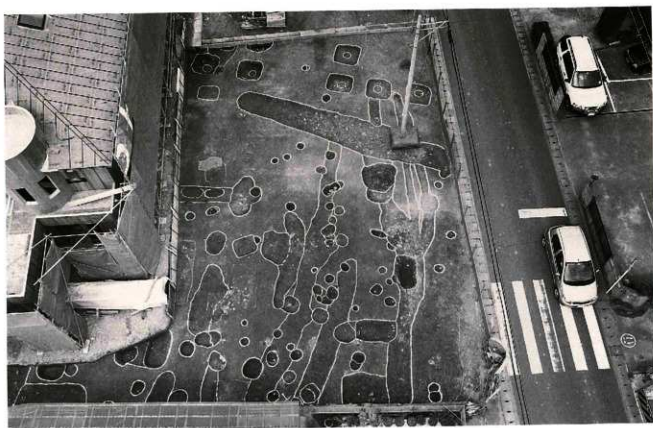
(1) 第33次発掘調査区空中写真全景
(弥生中・後期の竪穴住居や土坑・柱穴群が密集して発見された。北より)



(2) 第33次発掘調査区空中写真全景
(上が北方向である。大型の上坑と溝については江戸末期のものである。北東より)



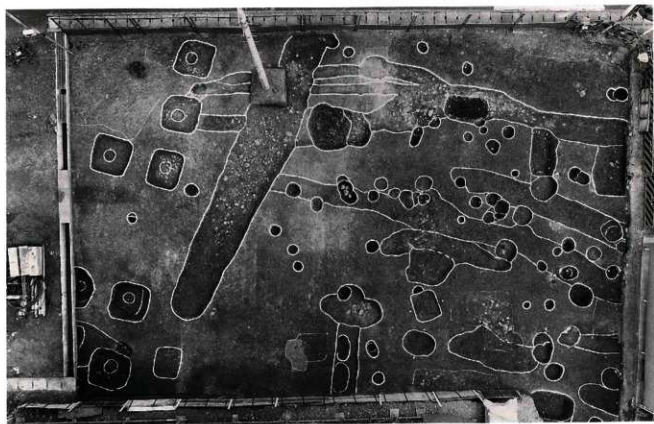
(1) 第28次発掘調査区空中写真遠景
(左奥が原野谷川、右奥が小笠山水系で、手前の住宅地が掛之上遺跡の立地する段丘である。西より)



(2) 第28次発掘調査区西半分空中写真全景
(上に奈良期の大型掘立柱建物の一部が2棟、中央の溝は弥生後期の方形周溝墓の溝である。東より)



(1) 第28次発掘調査区西半分空中写真全景
(横方向の溝は江戸末期の区画溝、土坑は弥生中・後期のものと江戸末期のものがある。北より)



(2) 第28次発掘調査区西半分空中写真全景 (真上より)



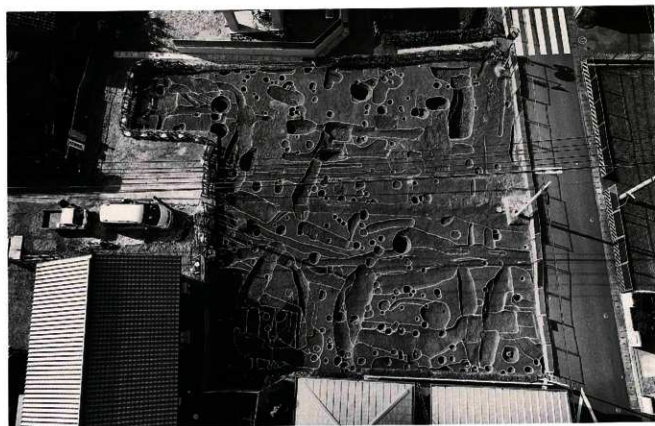
(1) 第28次発掘調査区西半分空中写真全景（西より）



(2) 第28次発掘調査区東半分空中写真全景（弥生中期の方形周溝墓が列状に並ぶ。西より）



(1) 第28次発掘調査区東半分空中写真全景
(土坑は江戸末期の水溜用がほとんどである。真上より)



(2) 第28次発掘調査区東半分空中写真全景
(複数の横方向の溝は江戸末期の区画溝である。東より)



(1) 第28次発掘調査区西半分全景（西より）



(2) 第28次発掘調査区西半分全景（北東より）



(1) 第28次発掘調査区東半分全景（南より）



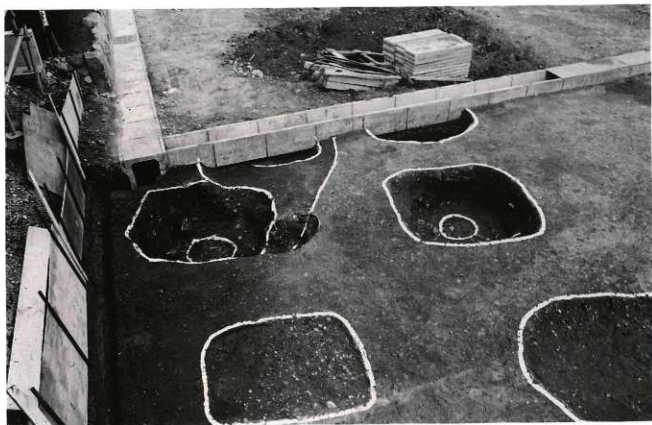
(2) 第28次発掘調査区東半分全景（西より）



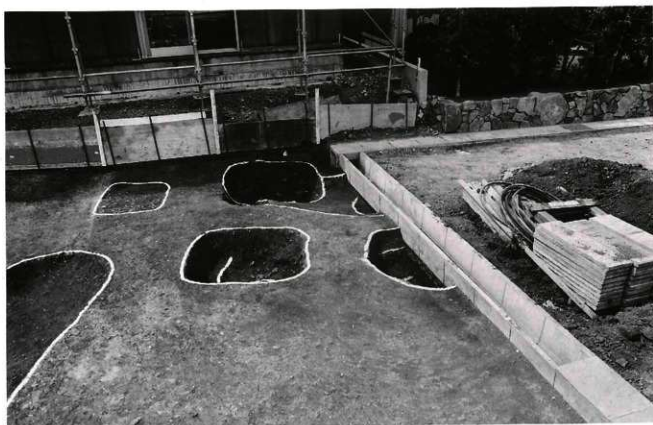
(1) SH6・9 (南北方向に並ぶ大型掘立柱建物。西より)



(2) SH6・9 (郡衙正倉院の西端の南北列の倉庫か。北より)



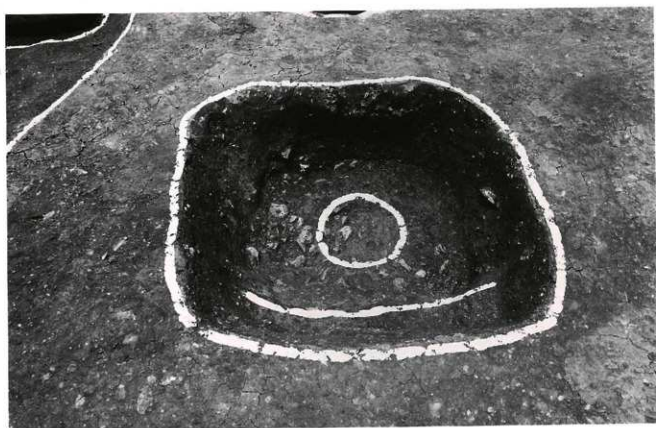
(1) SH6 (3間×3間以上の総柱建物の一部である。東より)



(2) SH6 (北より)



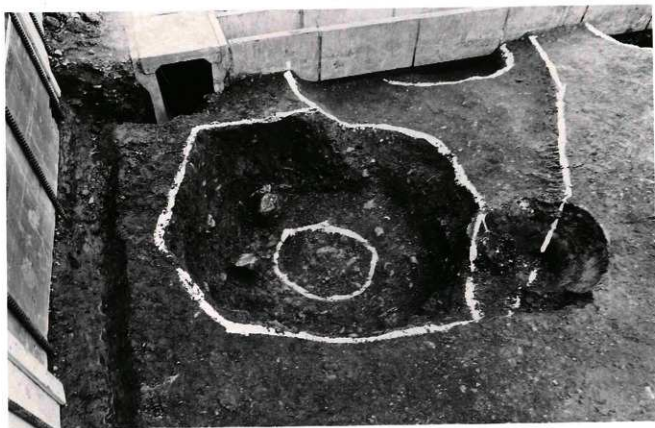
(1) SH6-P7土層（土層中には柱痕跡は確認できなかった。東より）



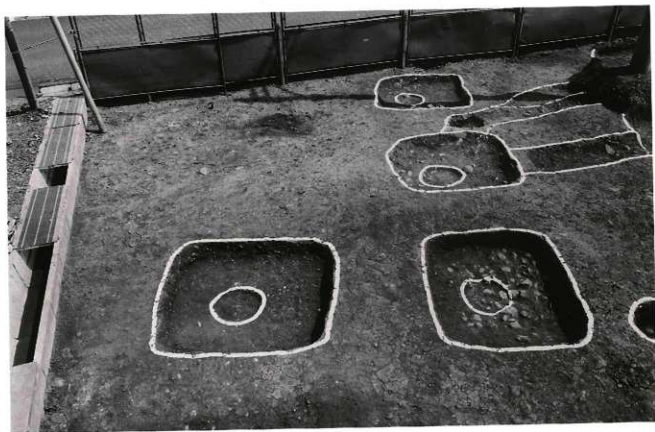
(2) SH6-P7（底に直径30cmの柱痕跡が確認できた。東より）



(1) SH6-P8土層（土層中には柱痕跡は確認できなかった。東より）

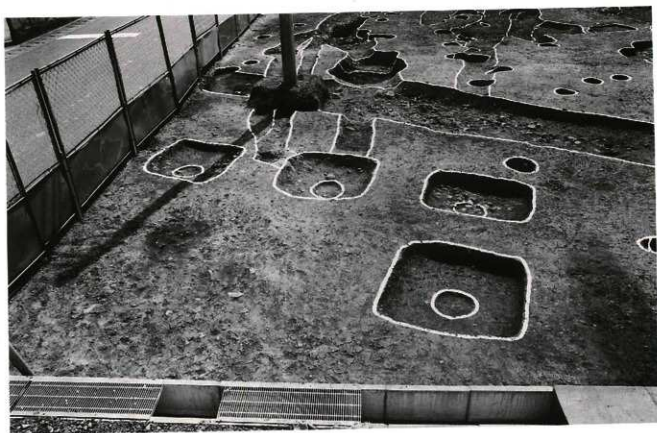


(2) SH6-P8（底に直径30cm以上の柱痕跡が確認できた。東より）



(1) SH9

(3間×3間以上になると思われる総柱建物の一部である。内部の柱穴は攪乱で失われている。南より)



(2) SH9 (西より)



(1) SH9-P3土層（土層中には直径50cmの柱痕跡が確認できた。東より）



(2) SH9-P3（底に直径30cmの柱痕跡が確認できた。東より）



(1) SH9-P4土層 (土層中には柱痕跡が確認できなかった。東より)



(2) SZ4東溝

(西溝等は前年度の調査で検出されており、四隅に陸橋のあるタイプの方形周溝墓である。東より)



(1) SZ4東溝内土器（壺の大型破片である。北より）



(2) SZ7（弥生時代中期の四隅に陸橋のある方形周溝墓である。西より）



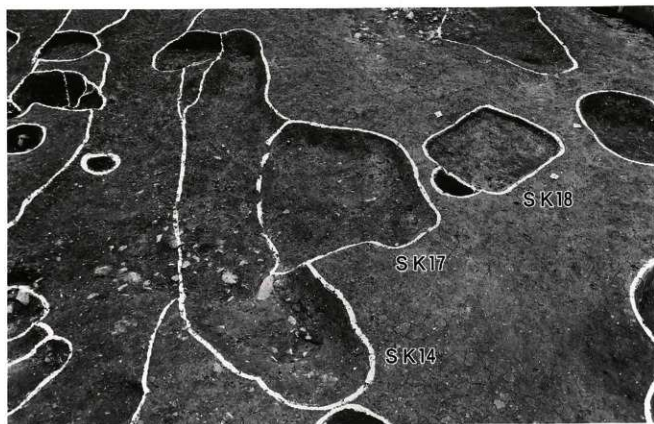
(1) SZ7 (南より)



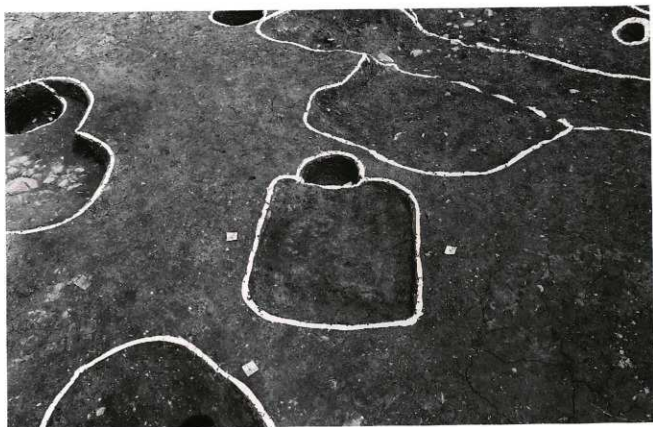
(2) SK13 (長楕円形の弥生期の土坑である。東より)



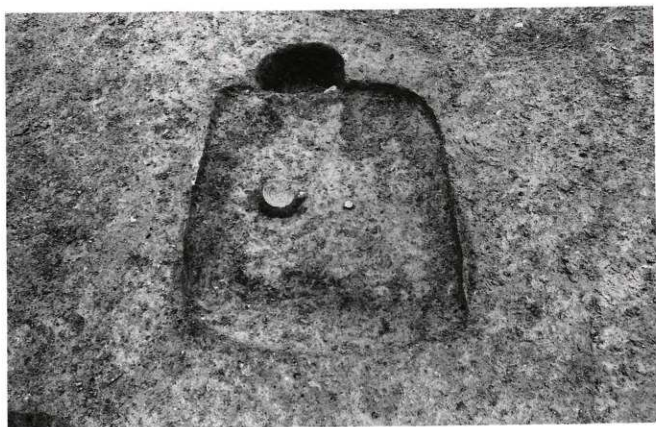
(1) SK16 (方形の土坑である。弥生後期の時期か。北より)



(2) SK14・17・18 (SK14は弥生期、SK17は古墳後期の土坑。西より)



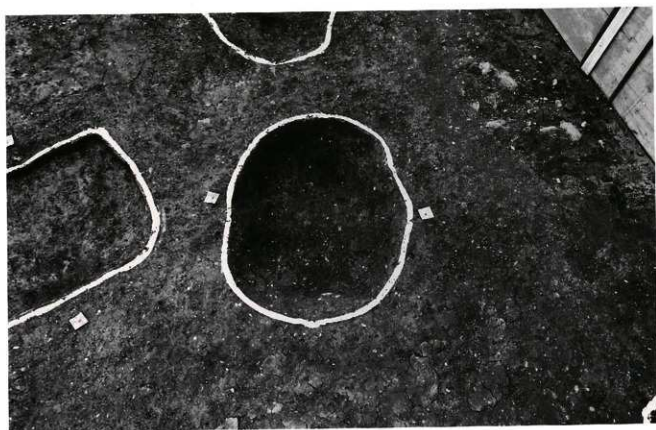
(1) SK18 (江戸期の火葬土坑墓。南より)



(2) SK18副葬品出土状況 (かわらけは少し浮いて、銅銭は底近くで出土した。南より)



(1) S K18副葬品出土状況（かわらけは少し浮いて、銅鏡は底近くで出土した。南より）



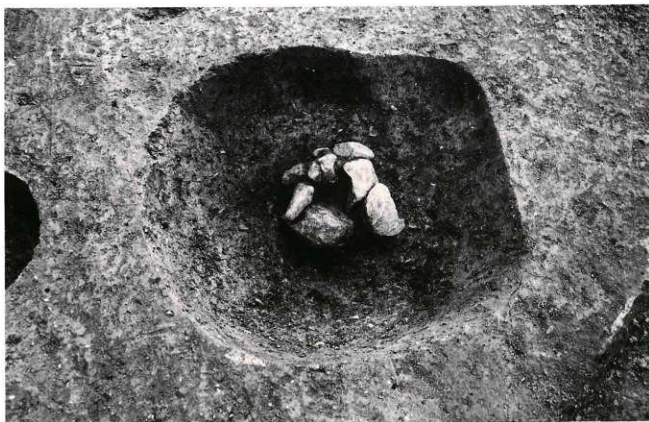
(2) S K19（弥生中期の土坑。西より）



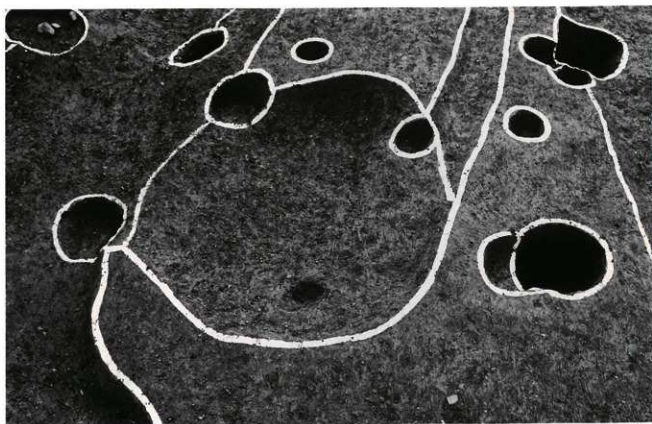
(1) S K19土器出土状況（壺2点が出土した。西より）



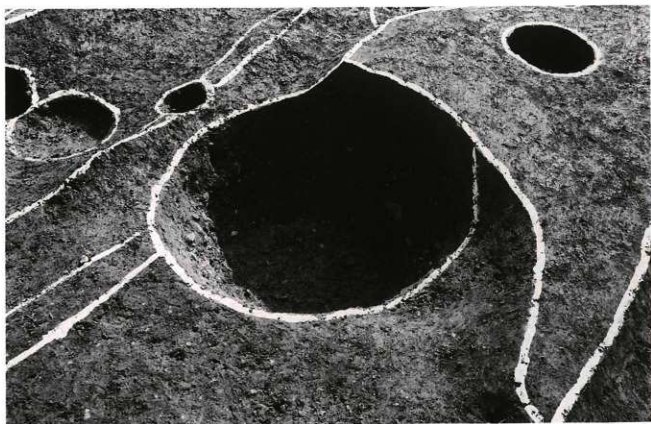
(2) S K19土器出土状況（いずれも完形率の高いがたりない部分もある。西より）



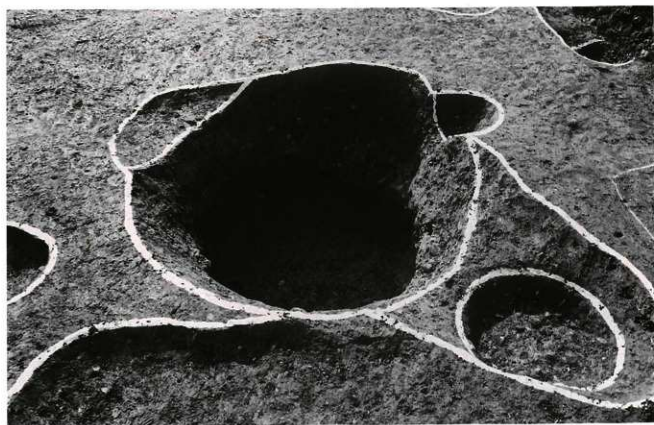
(1) SK23 (中央に礫が集中して出土した。西より)



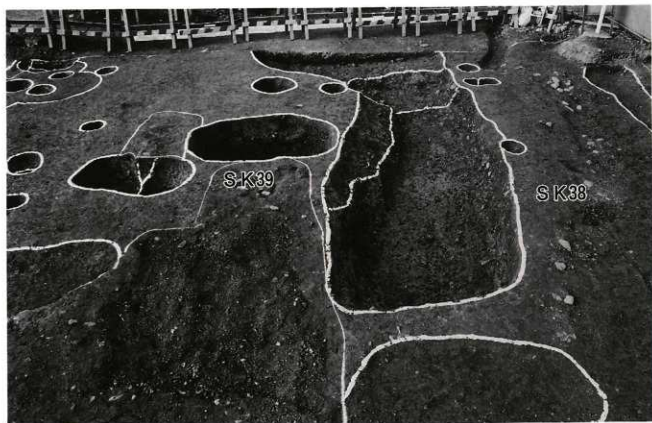
(2) SK28 (浅い土坑で古墳後期か。北より)



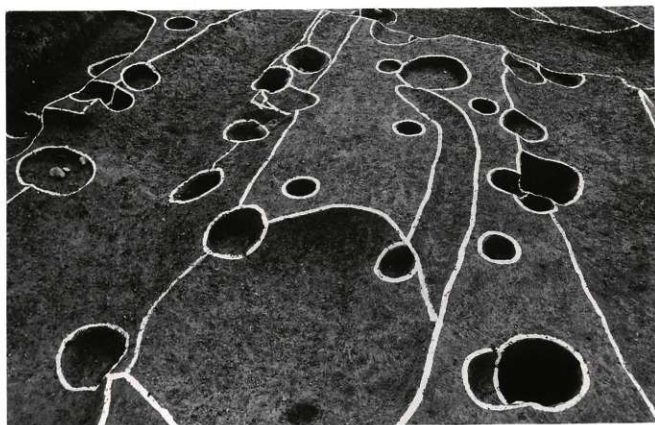
(1) S K29 (江戸末期の水溜用か。北より)



(2) S K37 (江戸末期～明治期の水溜用である。北より)



(1) S K38・39 (江戸末期～明治期の水溜用で、S K38は大型土坑である。東より)



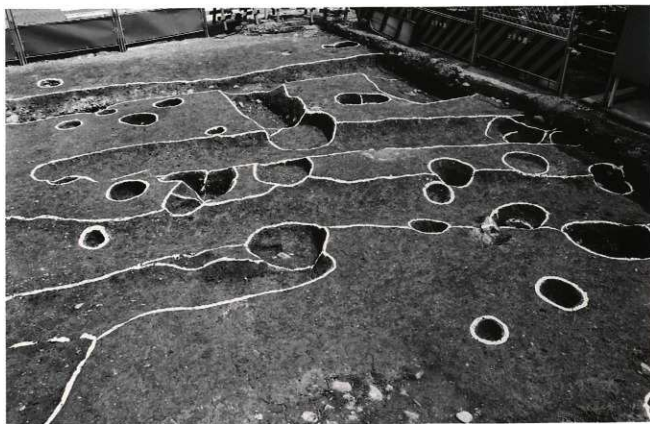
(2) 柱穴群 (S K28付近の掘立柱建物になりそうな柱穴群である。北より)



(1) SD11～13 (江戸末期の区画溝。西より)



(2) SD13内土坑 (水溜用の施設か。東より)



(1) 柱穴群 (S D12付近の掘立柱建物になりそうな柱穴群である。南より)



(2) S P66 (焼土が底に見られる小穴である。あまり良く焼けていない。西より)



(1) SD18~20 (いずれも江戸末期の区画溝である。南より)



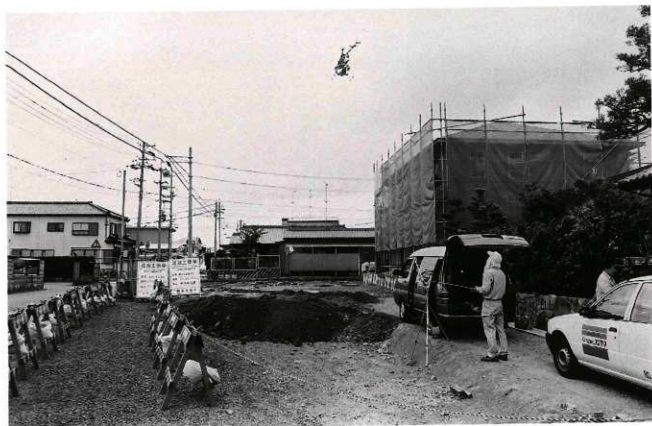
(2) 東半分調査区東壁の土層
(厚さ10cmの包含層が確認できるが残存状況としては一部である。西より)



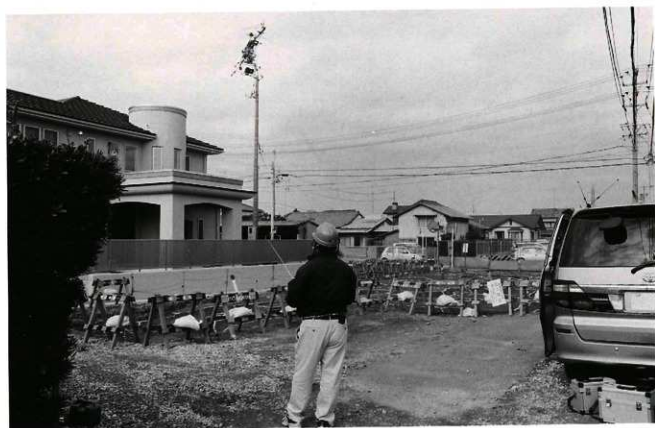
(1) 重機による表土掘削作業風景



(2) 人力による遺構掘削作業風景
(SH9の柱穴を掘削している。柱穴がかなり大きいことがわかる。)



(1) ラジコンヘリによる写真撮影・測量作業風景（調査区西半分）



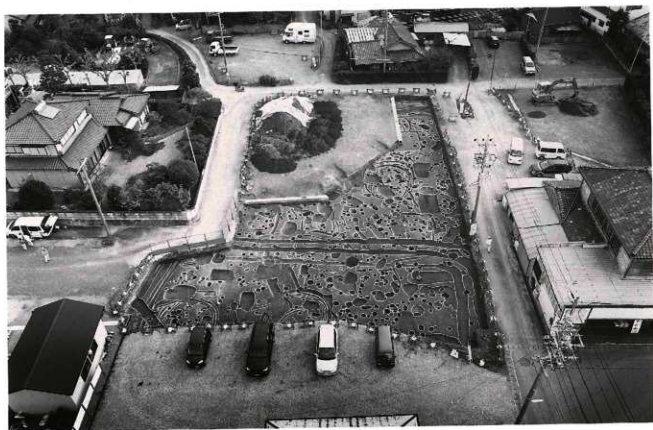
(2) ラジコンヘリによる写真撮影・測量作業風景（調査区東半分）



(1) 第33次発掘調査区空中写真遠景
(左奥に古笠西池跡の低地が見られる。手前の住宅地が掛之上遺跡が立地する段丘である。北東より)



(2) 第33次発掘調査区空中写真全景
(弥生中・後期の竪穴住居や土坑、柱穴群が密集して見つかった。東より)



(1) 第33次発掘調査区空中写真全景（溝は江戸末期の区画溝である。西より）



(2) 第33次発掘調査区空中写真全景（上が南。真上より）



(1) 第33次発掘調査区全景（東より）



(2) 第33次発掘調査区全景（北より）



(1) 第33次発掘調査区全景（東より）



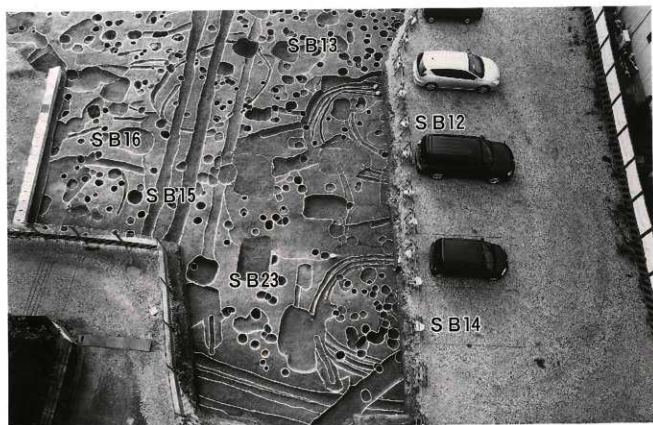
(2) S B11（弥生後期の竪穴住居か。東より）



(1) S B11 (隅丸方形の形態で中央に炉がある。北より)

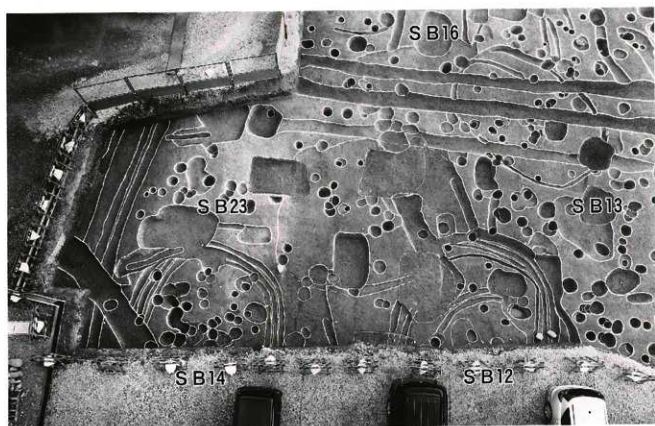


(2) S B11炉跡 (地床炉で、良く焼けている。東より)



(1) SB12~16・23

(楕円形の竪穴住居が弥生中期、隅丸方形が弥生後期に該当すると思われる。北より)

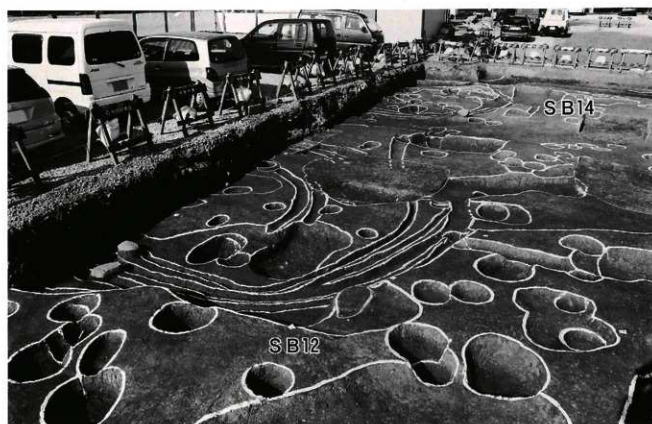


(2) SB12~14・23

(竪穴住居が密集して検出されるが、時期の同じものは切り合わない。西より)



(1) SB12・14 (何れも楕円形の竪穴住居で弥生中期に該当する。北より)



(2) SB12・14 (南より)



(1) S B12 (楕円形で弥生中期の竪穴住居と思われる。東より)



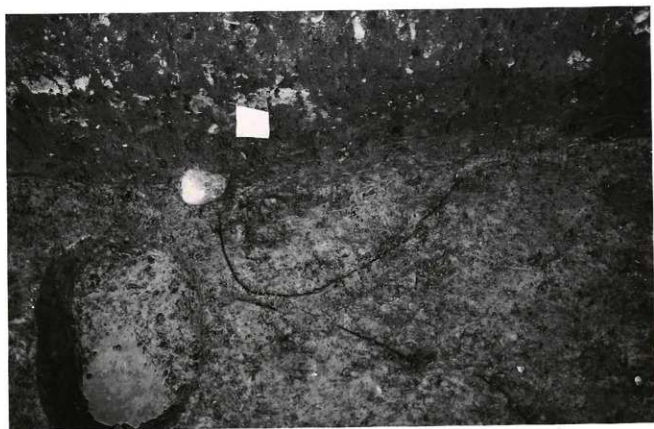
(2) S B12 (壁溝が重複し最低5回の建替が認められた。北より)



(1) SB12炉跡
(同レベルの床面で3箇所認められた。周辺には焼土粒子が散る。東より)



(2) SB12炉跡1 (地床炉である。東より)



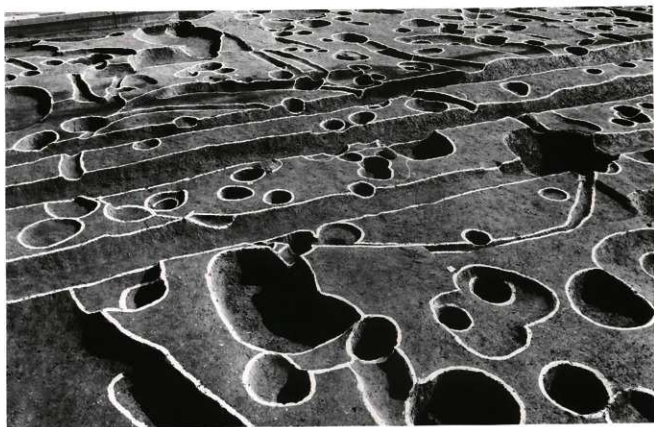
(1) SB12炉跡2 (地床炉でよく焼けている。東より)



(2) SB12炉跡3 (地床炉でよく焼けている。東より)



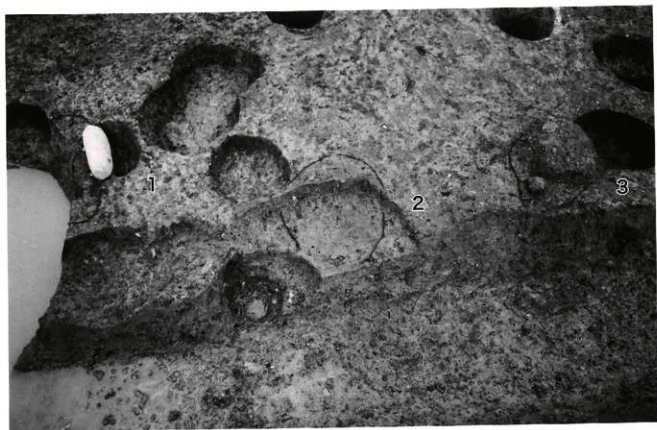
(1) SB13 (楕円形で弥生中期の竪穴住居と思われる。北より)



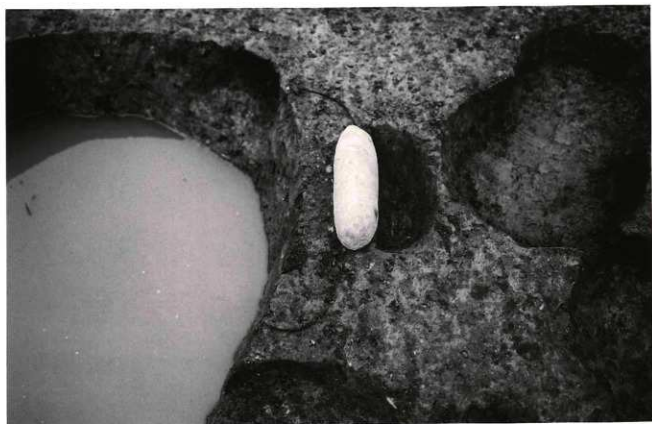
(2) SB13 (壁溝から2回の建替が認められた。西より)



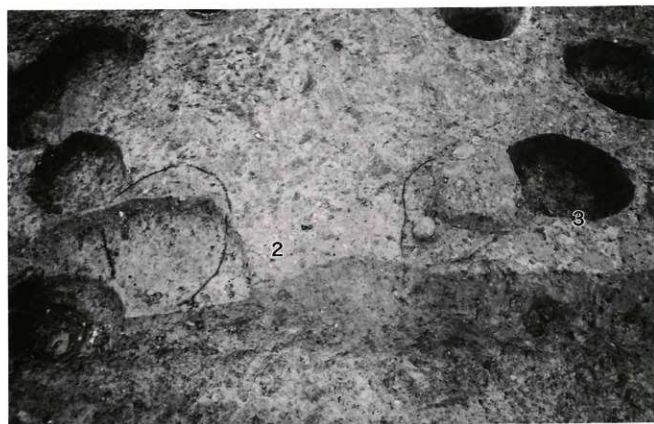
(1) SB13 (北西より)



(2) SB13伊跡 (同一面で3箇所認められた。東より)



(1) S B13炉跡1 (配石のある炉であるが、あまり焼けていない。東より)

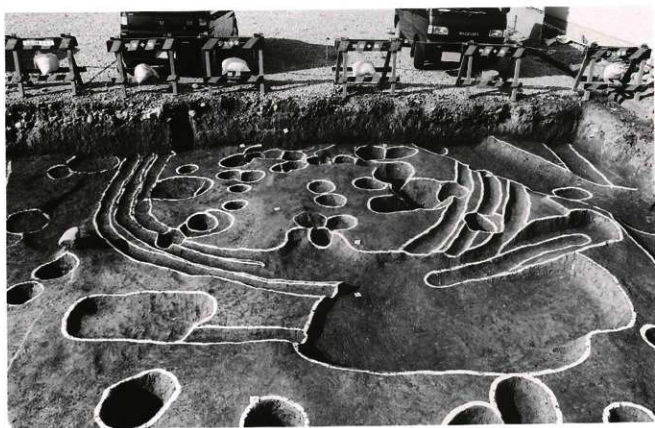


(2) S B13炉跡2・3

(いずれも地床炉であるが、炉跡2は浅い小穴を伴い、炉跡3はやや高い位置で検出された。東より)



(1) S B13石器出土状況（蛤刃石斧である。東より）



(2) S B14（楕円形で弥生中期の竪穴住居と思われる。東より）



(1) SB14 (壁溝が重複し最低5回の建替が認められた。北より)



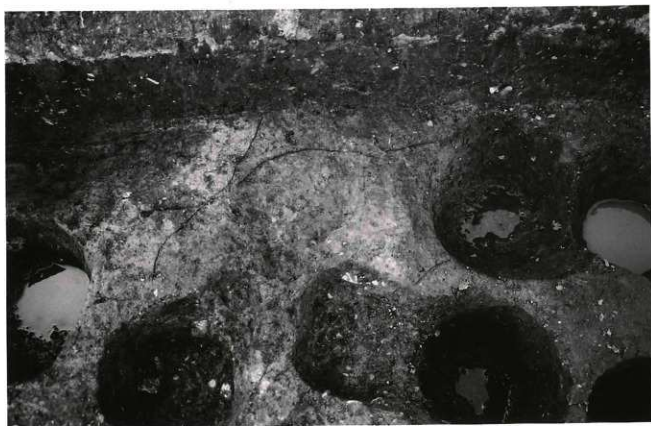
(2) SB14跡1～3
(住居中央部分の同レベルの床面で3箇所認められた。周辺には焼土粒子が散る。東より)



(1) SB14炉跡1 (地床炉であるが粘土を貼る。東より)



(2) SB14炉跡2 (地床炉でよく焼けている。東より)



(1) SB14炉跡3 (地床炉であるが粘土を貼る。東より)



(2) SB14炉跡4 (住居東側で検出された。地床炉であまりよく焼けていない。東より)



(1) SB14土器出土状況（壺や甕が出土した。西より）



(2) SB14土器出土状況（いずれも壺である。北より）



(1) SB14土器出土状況 (いずれも壺である。北より)



(2) SB14土器出土状況 (壺で底部が欠損している。北より)



(1) S B14土器出土状況 (小型の壺である。北より)



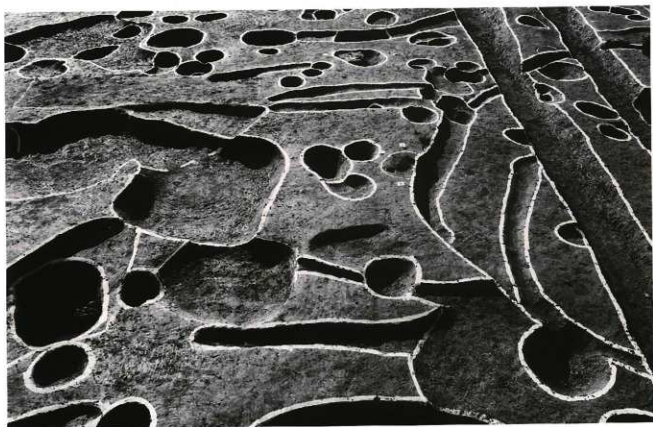
(2) S B15 (隅丸方形で弥生後期の竪穴住居と思われる。南より)



(1) S B15 (壁溝から単時期であることがわかる。西より)



(2) S B15炉跡 (地床炉の周辺にかなり広い範囲で焼土粒子が散る。南より)



(1) SB16

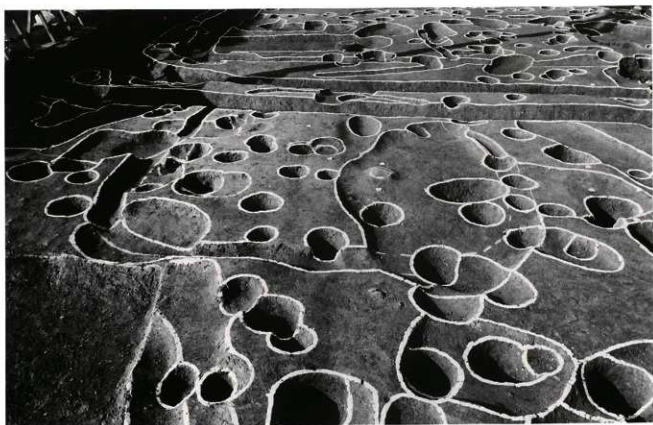
(隅丸方形の竪穴住居と思われる。壁溝から2回の建替が確認できた。北より)



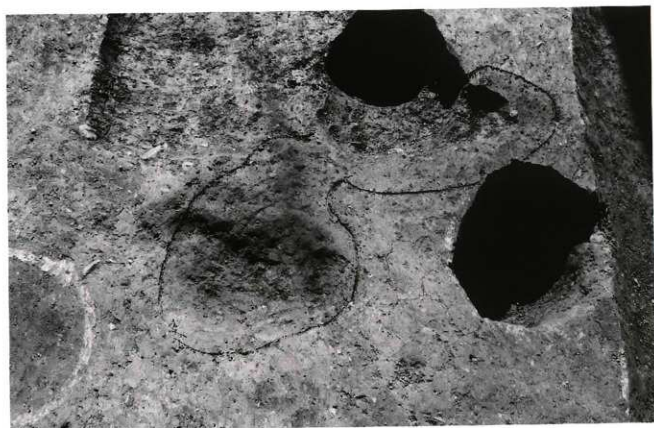
(2) SB16炉跡 (地床炉でよく焼けている。東より)



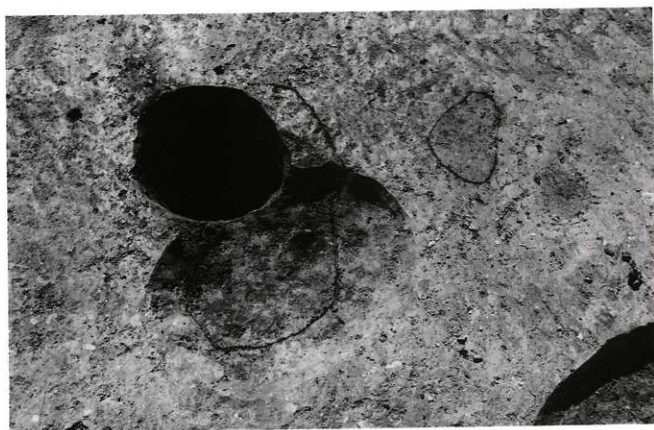
(1) S B17 (隅丸方形で弥生後期の堅穴住居と思われる。北より)



(2) S B17 (壁溝から単時期であることがわかる。中央に炉跡が確認できた。東より)



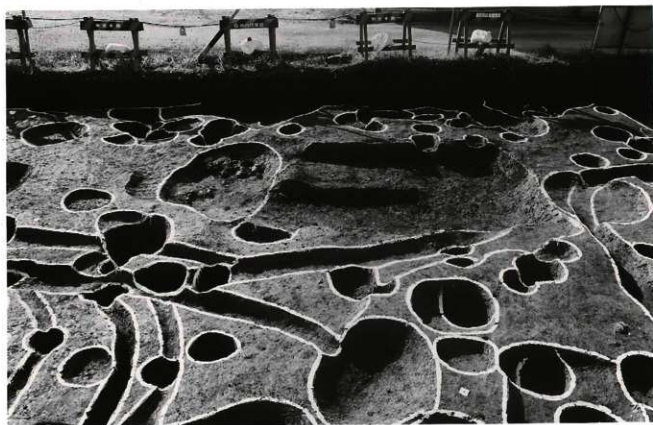
(1) S B17炉跡1 (2箇所の地床炉である。北より)



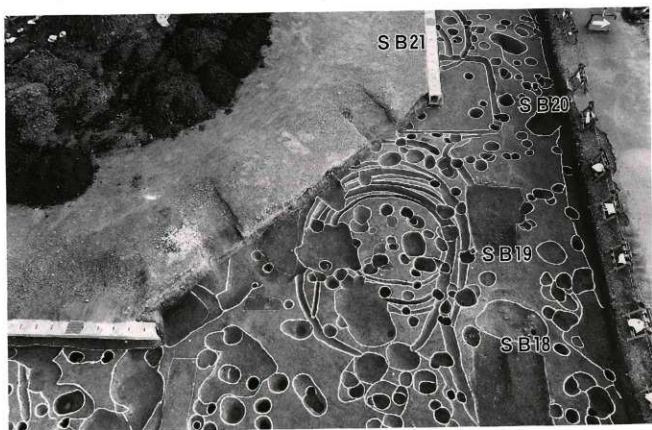
(2) S B17炉跡2 (地床炉でよく焼けており、浅い小穴状になる。北より)



(1) SB17炉跡3 (地床炉であるがあまりよく焼けていない。北より)



(2) SB18 (一部の検出で時期、形態不明の竪穴住居である。北より)



(1) SB18~21

(SB18・21は楕円形で弥生中期、SB20は方形で古墳後期の竪穴住居と考えられる。西より)



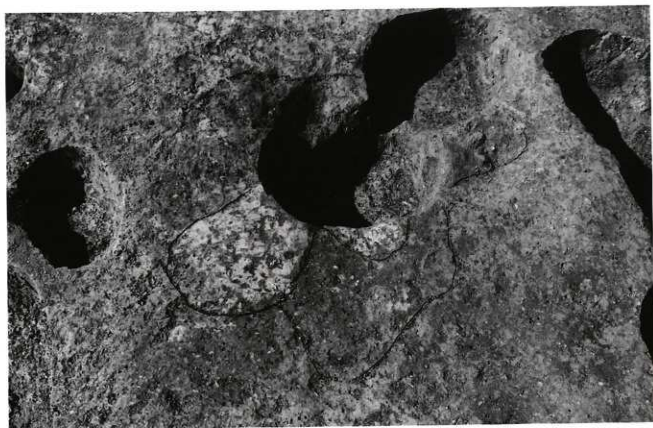
(2) SB19 (楕円形で弥生中期の竪穴住居と思われる。西より)



(1) S B19 (中央に炉跡が確認された。北より)



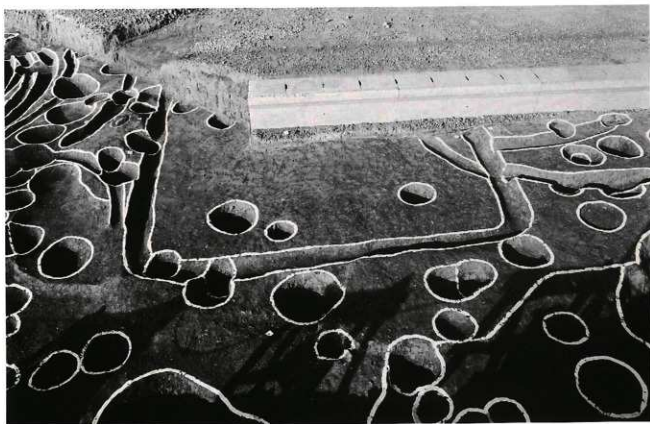
(2) S B19 (多数の壁溝が重複し最低7回の建替が認められた。東より)



(1) SB19炉跡1 (よく焼けている地床炉で、周辺に焼土粒子が散っている。東より)



(2) SB19炉跡2・3 (どちらも地床炉でありよく焼けていない。南より)



(1) S B 20 (正方形で古墳後期の竪穴住居である。南より)

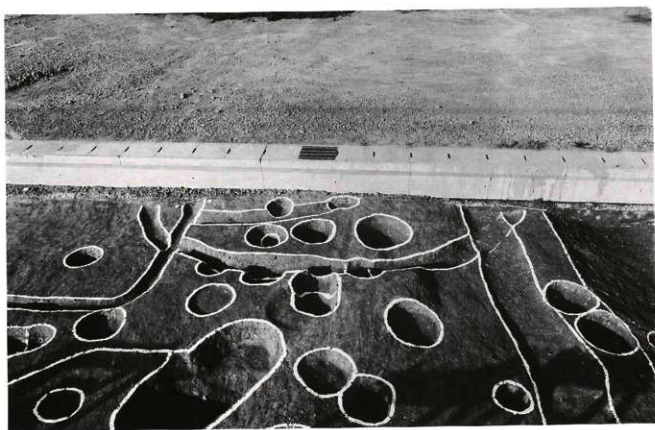


(2) S B 20

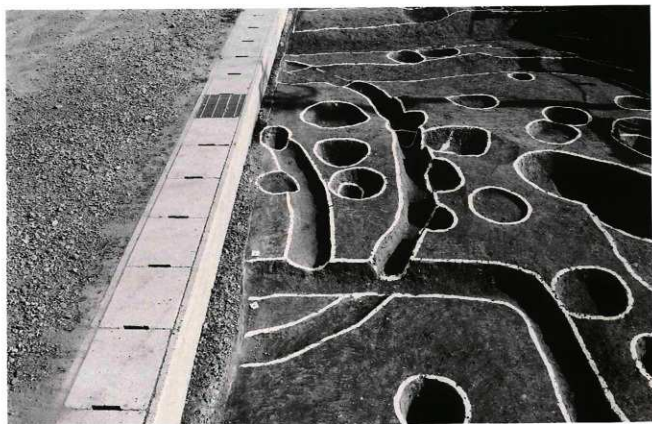
(壁溝から単時期であることがわかる。かまどは北壁に存在すると見られる。西より)



(1) S B20土鍾出土状況（東壁溝内よりやや浮いて出土した。南より。）



(2) S B21（部分的な検出ではあるが楕円形で弥生中期の竪穴住居と思われる。南より）



(1) S B21 (壁溝が重複し最低2回の建替が認められた。西より)



(2) S B22

(部分的な検出のため時期不詳ではあるが、隅丸方形となるため弥生後期の竪穴住居と思われる。北東より)



(1) S B23

(正方形の大型住居であり古墳後期の竪穴住居となる可能性はあるが、かまどは検出されていない。南より)



(2) S B23 (壁溝は一部しか検出されていない。炉跡は確認できていない。東より)



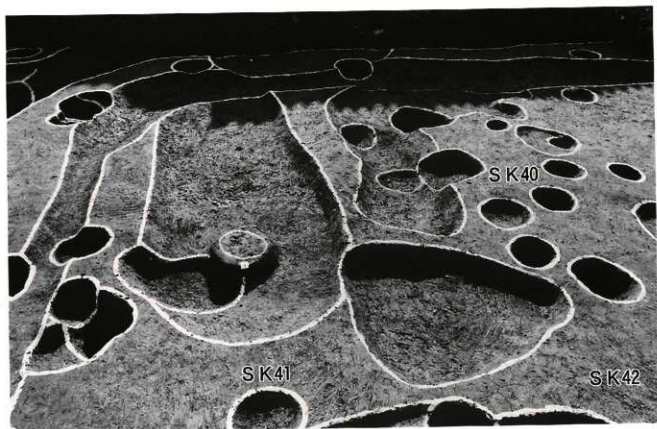
(1) 調査区北西隅柱穴群
(多数の柱穴が集中し、弥生後期・古墳後期の掘立柱建物が存在する可能性がある。南より)



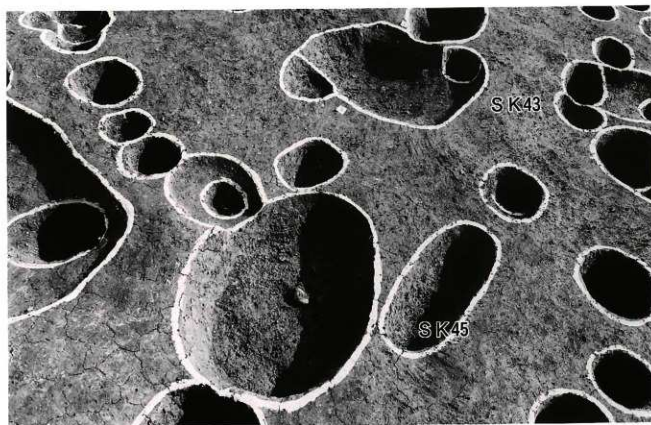
(2) 調査区北西隅柱穴群 (北東より)



(1) SK39 (大型の弥生後期の土坑で、竪穴住居になる可能性もある。東より)

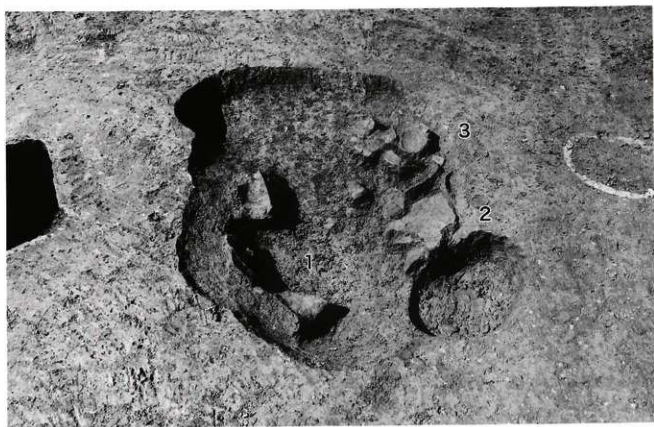


(2) SK40～42 (いずれも弥生後期の土坑であるが、形態は様々である。北より)



(1) SK43・45

(いずれも楕円形の土坑で、SK43からは弥生中期の土器がまとめて出土した。北より)



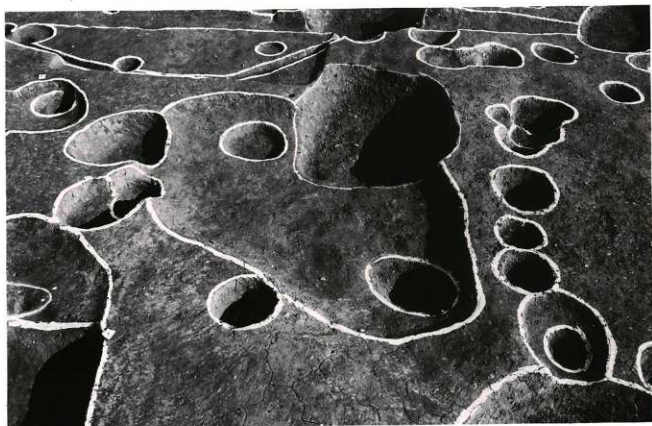
(2) SK43土器出土状況 (弥生中期の甕や壺の大型破片が出土している。西より)



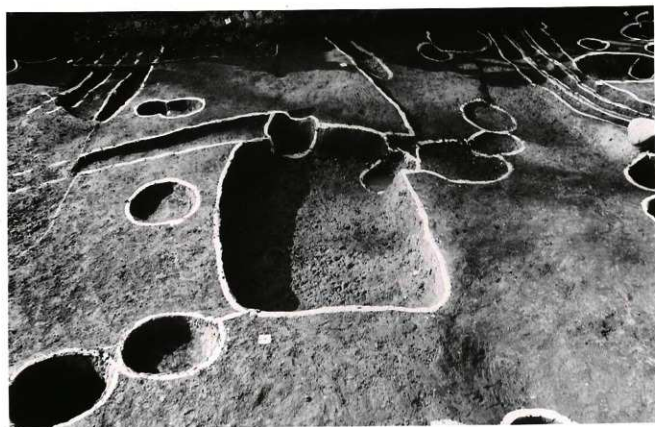
(1) S K43土器出土状況（甕の大型破片を含む。西より）



(2) S K43土器出土状況（いずれも壺の大型破片である。西より）



(1) S K46 (楕円形の土坑で、弥生期になるものか。西より)

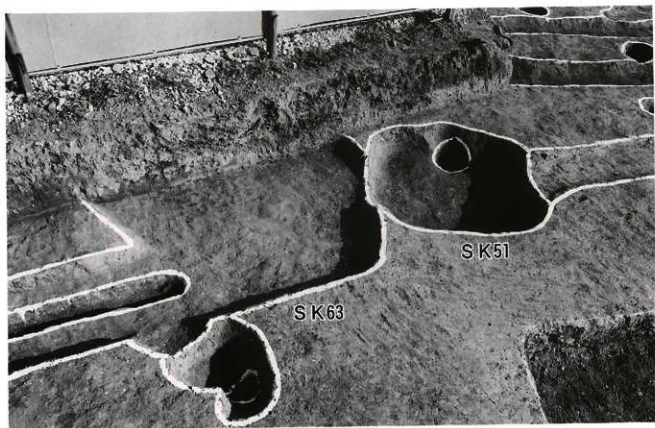


(2) S K47 (長方形の土坑で、弥生期になるものか。東より)



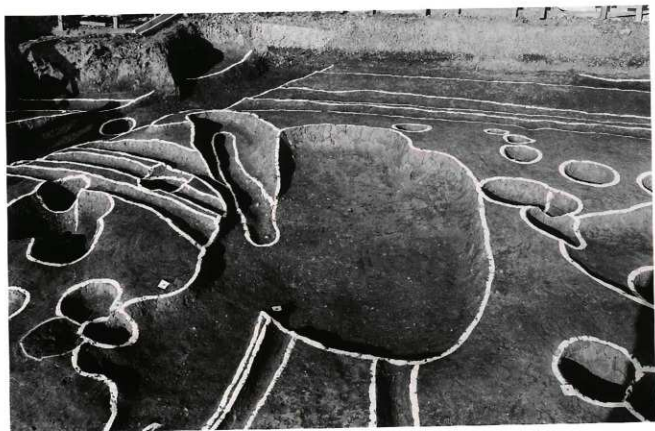
(1) SK47

〈楕円形の焼土を伴う土坑で、SB12に切られているため弥生中期の時期になるもの。北東より〉



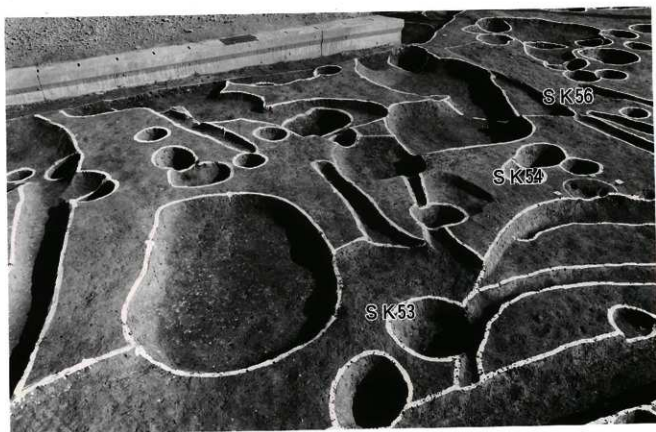
(2) SK51・63

〈いずれも浅い不定形の土坑で、弥生後期と古墳後期の時期になるものであろうか。西より〉



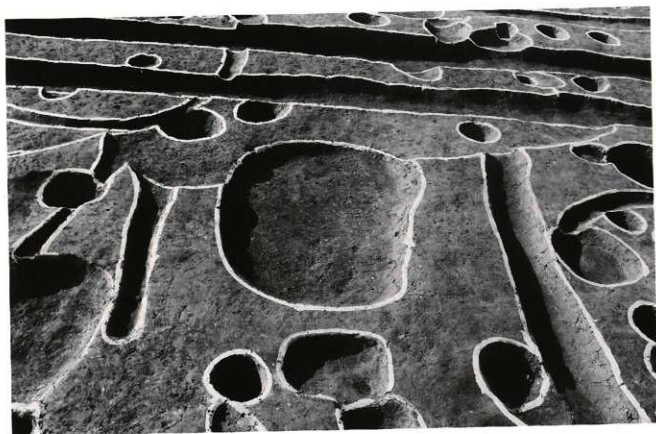
(1) SK52

(大型の楕円形土坑で、SB14を切っているため弥生後期の時期になるものであろうか。南より)

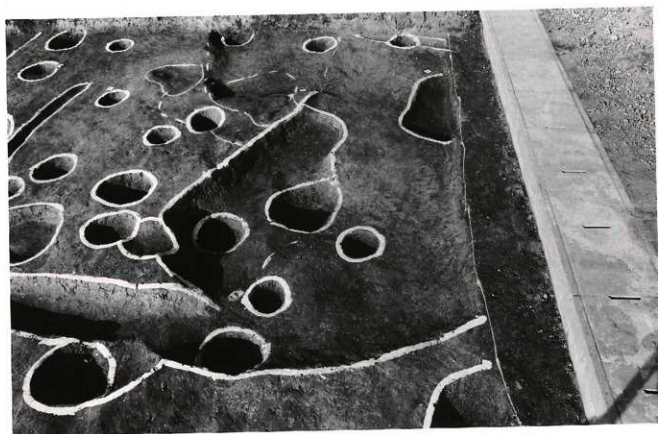


(2) SK53・54・56

(楕円形や長方形、不定形など様々な形態の浅い土坑群である。いずれも弥生後期に該当するものか。西より)



(1) SK53 (楕円形の浅い土坑で、弥生後期に該当するものか。西より)



(2) SK55 (不定形の浅い土坑で、弥生後期のSH15の床面下より検出された。南より)



(1) S K55土器出土状況（弥生中期の壺や甕の小破片がまとまって出土した。東より）



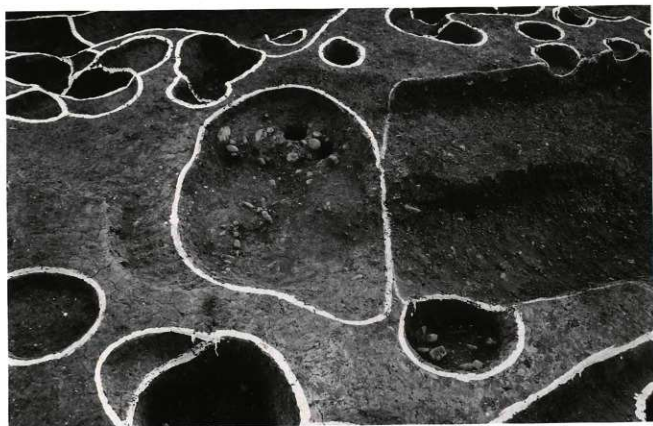
(2) S K57（楕円形の深い土坑で、弥生後期の土器が出土した。南より）



(1) S K57土器出土状況（弥生後期の壺が浮いた位置で出土した。南より）



(2) S K57土器出土状況（上半分を欠損する小型の壺である。南より）



(1) S K 58 (楕円形の土坑で、弥生後期の時期になるとされる。北より)



(2) S K 59 (楕円形の土坑で、弥生後期の土器がまぎれあって出土した。西より)



(1) S K59土器出土状況 (壺や高坏の大型破片が多く見られる。北より)



(2) S K59土器出土状況 (壺や高坏の大型破片が多く見られる。北より)



(1) S K60

(楕円形の土坑で、弥生中期のS B19を切るため弥生後期の時期になるものである。北より)



(2) S K61

(不定形の土坑で、弥生中期のS B19を切るため弥生後期の時期になるものである。西より)



(1) SD7・14

(SD7は弥生後期、SD14は江戸末期の東西方向の区画溝である。西より)



(2) SD7土器出土状況 (弥生後期の壺で、かなり浮いた位置で出土した。北より)



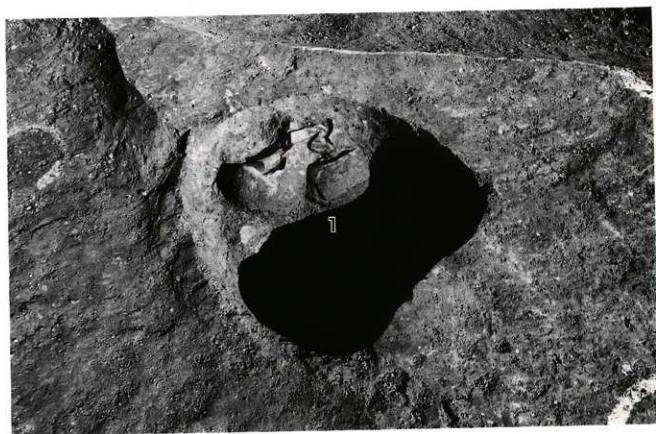
(1) SD7 焼上検出状況
(遺構確認面で見られるため、弥生後期以降の竪穴住居の炉跡の可能性が高い。西より)



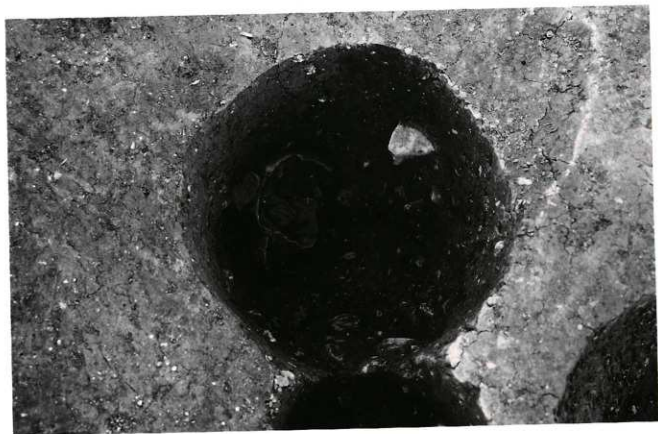
(2) SD15~18 (いずれも中世・江戸末期の南北方向の区画溝の一部と思われる。北より)



(1) SD19~21 (いずれも江戸末期のL字にのびた区画溝と思われる。北より)



(2) SP229 (大型の土器片が出土した。西より)



(1) S P 243 (大型の土器片が出土した。南より)

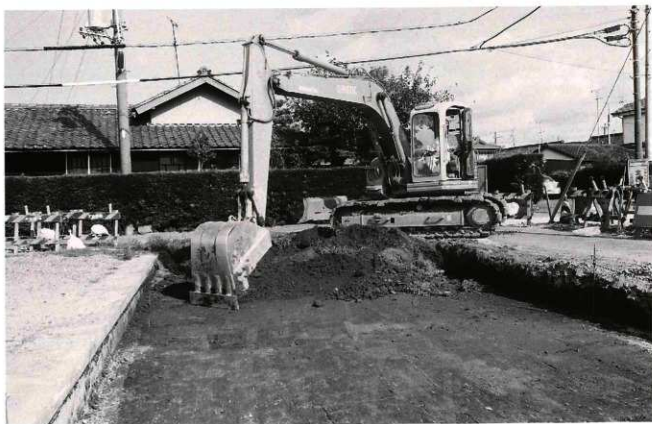


(2) S P 288 (焼土が見られる小穴である。東より)



(1) 焼土1

(自然礫が並べられていたが、礫は焼けていない。竪穴住居の地床になる可能性がある。南より)



(2) 重機による表土掘削作業風景 (包含層が存在したため、包含層上面までの掘削である)



(1) 人力による遺構掘削作業風景



(2) ラジコンヘリによる写真撮影・測量作業風景

報告書抄録

フリガナ		カゲノウエイセキ		シャシンズハンヘン		
書名		掛之上遺跡28・33 写真図版編				
副書名		袋井市駅前第二地区土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書14				
編集著者名		松井一明				
編集機関名		袋井市教育委員会				
所在地		〒437-8666 静岡県袋井市新屋一丁目1番地1 ☎0538-44-3141				
発行年月日		2005年2月25日				
フリガナ 所収遺跡名		カゲノウエイセキ 掛之上遺跡				
フリガナ 所在地		シズオカケンフタコイシシタカオカゲノウエ 静岡県袋井市高尾掛之上				
コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 44' 24"	137° 55' 53"	20040507	1180.0㎡	袋井市駅前第二地区 土地区画整理事業に 伴う掛之上西通線・ 掛之上線他道路建設
22216	151			～ 20050225		
所収遺跡名		種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
掛之上遺跡		集落跡	弥生時代 中・後期	方形周溝墓 竪穴住居 土坑	土器・石器	弥生時代中・ 後期大方形 周溝墓群・ 拠点集落 有力集落
			古墳時代 前・後期	竪穴住居 掘立柱建物 方形周溝墓	土器（土師器・須 恵器）	
			奈良時代	大型掘立柱建物	須恵器	
			近世	火葬墓 井戸 屋敷地割溝	陶磁器・かわらけ 銅銭	
		特記事項				
		郡衙推定 遺跡				

袋井市駅前第二地区土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書14

掛之上遺跡 28・33

— 写真図版編 —

発行年月日 2005年2月25日

編集・発行 袋井市教育委員会

袋井市役所建設経済部区画整理課

〒437-8666 静岡県袋井市新屋1-1-1

印刷 松本印刷株式会社

〒437-0022 静岡県袋井市方丈3丁目3-11